



Reitaku Overseas Development Association RODA ニューズレター

財団法人麗澤海外開発協会 会報

平成22年
(2010年)
3月10日

第12号

第7巻 第1号
年2回発行

主な記事

巻頭 नेपाल・ポカラ ヘルスキャンプ
報告 タイ・スタディツアー開催
国際協力特別講座
その他 寄付金等の報告

発行所：財団法人麗澤海外開発協会
〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1
TEL.04-7173-3165 FAX.04-7173-8953
<http://www.reitaku.or.jp>
発行人・木下廣太郎 / 編集人・横山守男

ネパール・ポカラ ヘルスキャンプを開催

7日間で2,275名の患者さんを診療しました



大勢のボランティアスタッフが休みなく、一人ひとりをしっかり治療しました

平成21年8月19日から25日までの7日間、「世界の屋根」と呼ばれるヒマラヤの白い山脈のふもとポカラにおいて、ネパール赤十字、ネパール東洋医学専門学校（以下 OTTC）の協力を得て、よもぎの会主催によるヘルスキャンプが実施されました。

初日の新患は350名ほどでしたが、2日目は500名以上になり、3日目からは日を追うごとに患者が増え、最高では一日700名以上を記録、最終的な患者数は延べ2,275名になりました。

今回は海外旅行経験が豊富な日本の鍼灸関係の指導者が8名参加され、覚えたネパール語をすぐ腕や手にメモし、患者さんに話しかけて、通じたときは喜んで肩を抱き合ったり、握手をする姿がとても印象的でした。

OTTC卒業生の3名のネパール人女性も1週間大変よく頑張ってくれました。とても手早くテキパキとした行動で、一人で3～4名の患者さんを掛け持ちで治療している姿を見て「ようやくネパールに鍼灸が根付きはじめた。OTTCを開設して本当によかった」と胸が熱くなる思いがしました。

今後せめて年に一度はヘルスキャンプを続けたいと希望していますが、諸物価の高騰と資金難、スタッフ集めなど、問題は山積しています。今後とも皆様の温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。 (報告 畑美奈栄)

開催場所：ネパール赤十字 ポカラ カスキ郡支部 会議室

鍼灸師：日本人9名 ネパール人5名

現地ボランティア：ネパール人延べ300名余

患者数：新患者 693名 (男性290名、女性403名 うち子ども7名)

旧患者 1,582名 (男性596名、女性986名)

患者総数 2,275名 (男性886名、女性1,389名)



Report from the spot 現地リポート

ネパール 医療支援活動

ネパール人スタッフと共に

日本で棒灸普及活動を行いました

(報告 畑美奈栄)



平成 21 日 11 月 12 日から 22 日まで、よもぎの会のネパール人スタッフであるイスワルさんとビシャルさんと共に帰国し、棒灸普及活動を精力的に行いました。イスワルさんは 4 年ぶり 5 回目、ビシャルさんは 8 年ぶり 2 回目の日本でした。

到着してすぐに、平成 19 年に亡くなられた滋賀県のもぐさメーカー株式会社山正の元会長である押谷幸次郎氏のご仏前にお参りさせていただきました。よもぎの会が現在ネパールでもぐさや棒灸作りができるようになったのはすべて山正さんのご協力のおかげです。改めて山正さんに感謝申し上げます。

15 日は東京神田の鍼灸関連商品を扱うお店・三景さん主催の「灸法臨床研究会」においてイスワルさん、ビシャルさんが日本語で棒灸の実技指導をさせていただきました。この勉強会には鍼灸学校の学生や、すでに治療院を開業されている先生も参加されています。いま日本では消防法で煙探知機の設置が義務付けられているため、モクモクと煙の出る棒灸講習会の会場探しはとても大変です。今回の会場も当然火や煙を出してはいけない会場でしたが、急遽、会場を外の隅田川沿いの遊歩道に変更し、ベンチなどを利用してなんとか行うことができました。

18 日は麗澤海外開発協会で報告会をさせていただき、過去にヘルスキャンプに参加された方々や専攻塾生の皆さんも来ていただきました。今回、ネパール人スタッフの訪日を実現したのは、麗澤海外開発協会のおかげです。ありがとうございました。

21 日と 22 日は私の卒業校である「東洋鍼灸専門学校」の学園祭。たくさんの方に棒灸をさせていただき、皆さんは口をそろえて「本当に気持ちいい、今までの熱いお灸の概念を捨てなければ」「この太さの棒灸は初めて、しかも“圧”を加えることで、こんなに体の深部に熱が通るとは思わなかった。ぜひ治療に取り入れたい」など、うれしいお言葉をたくさん頂戴しました。

今回の訪日ではたくさんの方々の棒灸治療への理解を得ることができました。忙しい時間をやりくりしてくださった皆さん、本当にありがとうございました。



スタッフと一緒に

治療を指導する
ビシャルさん



民芸品の販売を
するイスワルさん



ハイチ大地震被害への緊急支援 ご協力ありがとうございました！



ハイチ大地震の被災者のもとへ届けられる支援物資

麗澤海外開発協会では、平成22年1月12日、ハイチ大地震の被害に対する緊急支援のため、500,000円を日本UNHCR協会（国連難民高等弁務官事務所の公式支援窓口）に贈らせていただきました。

UNHCRでは現在ハイチおよびその周辺地域において、被災者保護のための支援とキャンプの運営、備蓄しているテントやビニールシートの提供、そしてキャンプ地の計画や調整の支援を行っています。



届けられた支援物資はハイチ赤十字社のスタッフによって配給されました

財団法人モラロジー研究所 関東・上信越エリア（7県）の皆様をはじめ、ご寄付いただきました多くの皆様に厚く御礼を申し上げ、ここにご報告いたします。

合計 **500,000** 円

の支援をしました。

※写真掲載にあたりましては、日本UNHCR協会の許可を得ております。

書き損じハガキ

ご協力ありがとうございました！



麗澤海外開発協会では、皆様から書き損じハガキを集めています。

送られたハガキは、郵便局で新しい切手に交換し、通信費に活用させていただき、ひいてはネパール、タイ、ラオス、カンボジアへの教育・医療支援活動や、海外において災害などが発生した場合の緊急支援活動に役立たせていただいております。

官製ハガキであれば、古い年賀ハガキでもかまいませんので、未使用のものを当協会事務局までお送りください。

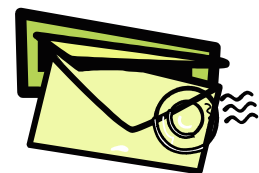
平成21年度4月から1月末日までに

50円ハガキ	495枚
45円ハガキ	198枚

合計

693枚 集まりました！

なお、古切手は柏モラロジー事務所副代表の石井敦子さんを通じて、柏市社会福祉協議会あてに身障者の社会復帰訓練用の教材として寄贈しています。



まだまだ **募集中!**



平成21年8月20日から12日間、第20回目の麗澤大学タイ・スタディツアーが開催されました。タイ北部にあるメーコック財団（貧困等の理由により学校に通えない29名の子どもたちに寄宿舎を提供、通学支援や職業訓練を行っている）や近くのバンパースー村（アカ族の村）、小学校等を訪問しました。6名の参加者は積極的にタイの文化や伝統に触れ、メーコック財団の子どもたちと楽しく過ごすことができました。生活習慣の違いや子どもたちの現状を実地に体験することで他国や異文化への理解を深め、いかに日本が恵まれた環境かを実感することができました！



●カレン族の村を訪問！ 象に乗りました！

カレン族の村、ライケオ村を訪問。伝統の織物を見学し、メーコック財団近くのカレン族の村では象乗り体験をしました！カレン族の伝統と文化を十分体験し、継承していく大切さを学びました。



●メーコック財団でのひととき

メーコック財団で子どもたちと交流をしました。交流会では、踊りや歌、竹遊びなどを体験。参加者も浴衣を着て日本の歌を披露しました。子どもたちとふれあうことで信頼関係ができ別れ際は後ろ髪をひかれる想いで帰国しました。



たくさん笑って遊んでとても楽しかったです！また一緒に過ごしたいなあ。



メーコック財団のアノラックさんの料理教室を開催。タイ料理のコツを教えてくださいました！みんなで作ったタイ料理で子どもたちと一緒に昼食会！

Thailand
Study tour
2009

タイ・スタディツアー参加者の想い

「この経験を多くの人に伝えたい」

—タイでの経験と思い出—

タイで真っ先に受けた印象は、人々の「笑顔」である。少数民族の村に訪問したとき、年配の女性たちが、別れ際に私たちのバスが見えなくなるまで、笑顔で手を振り、見送ってくれた。メーコック財団の子どもたちも、目が合えば愛らしい笑顔を見せてくれ、とても人懐っこい子たちばかりだった。初めて会った見知らぬ人に、そんな笑顔を見せてくれるだろうか。ツアーに参加して、改めて日本の便利さや、自分がいかに幸せなのかを痛感した。日本にいただけではわからない、書ききれないほどのたくさんのことを、知り、感じ、考え、学び、出会った旅だった。また、この経験を今度は私たちが、多くの人に伝えることが私たちの使命だと思っている。そして、私たちの声を聞いた人々が、何らかの行動を起こす勇気を持ってくれたら嬉しい。私自身、必ずまたタイに行こうと思っている。



(麗澤大学外国語学部英語学科3年 大谷亜希子)



私はタイにいる間に、日々タイ語学習への意欲がかなり高まり、そして言葉の大切さを身をもって体感した。しかし子どもたちとのコミュニケーションには言葉など必要なかった。笑顔だけでみんなと打ち解けることができた。子どもたちは朝早くから仕事にはげみ、自分のことは自分で行き、とてもたくましく立派に自立している。当時の私にこのような忍耐力や精神力があったのだろうか。深く考えさせられた。私は本当に心の底からこの旅に参加できてよかった。竹原先生がおっしゃっていた“知る”の大切さが理解できた。“知り、実際に見て、感じる”で「自分は何ができるのか」という次のステップにのぼり考えることができるのだろう。最後に、なによりこの旅に参加させてくれた両親と、私たちにこのような貴重な機会を与えてくださった竹原先生に、感謝したい。

(麗澤大学外国語学部外国語学科国際交流・国際協力専攻(IEC)1年 深野木美穂)

子どもたちと関わっていると、タイ語を学んでいればもっと伝わるのにと、落ち込むこともありましたが、言語が通じなくても伝えよう、しゃべろう、という気持ちがあれば自然と通じ合うものだというのを、改めて出会った子どもたちによって気付かされました。

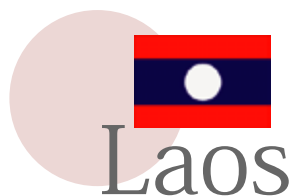
同じ人間なのに、何でこんな差があるのだろうと改めて考えさせられ、それと同時に日本の豊かさになれ、周りが考えられないくらい平和ぼけしている自分に気づきました。本当に貴重な体験ができたことを心から感謝しています。竹原先生に授業で教えていただいた「美しい4つの犠牲」(お金・体力・勇気・時間)という言葉が認識させてくれる旅でした。

(麗澤大学外国語学部外国語学科国際交流・国際協力専攻(IEC)1年 柴田恵理)



THAI STUDY TOUR 2009





ラオスの図書館建設への第一歩始まる

麗澤大学外国語学部では平成 20 年度より、「多言語」「多文化」を学び共生社会の実現に寄与する国際的教養人を育成するためのカリキュラムがスタート、その中に国際交流・国際協力専攻（以下 I E C）が誕生しました。

I E Cでは、当協会の理事でもある竹原茂教授のもと、より実践的な国際ボランティアを学ぶため、学生海外ボランティアプロジェクト（R I S O V P）を立ち上げ、平成 21 年 8 月 31 日～9 月 14 日の 15 日間、竹原教授と共にラオスを訪問しました。ラオスでは平成 20 年 8 月に麗澤海外開発協会の寄付により校舎が再建されたラオスのサワンナケート県タート・インハン小学校や教育局、ビエンチャン（ラオスの首都）にある文部科学省、在ラオス日本大使館や S V A（シャンティ国際ボランティア会）ラオス事務所などを訪問、多くの関係者から現地の事情や教育現場の様子、学校建設や図書館建設の具体的方法や維持管理方法などの貴重なお話を伺うことができました。今回の訪問で学生たちは、ラオスの教育環境向上のために自分に今何ができるのかを考える第一歩を踏み出し始めました。

麗澤海外開発協会では平成 22 年度にラオスのサワンナケート県タート・インハン小学校の校舎贈呈に続き、図書館建設を予定しています。I E Cの学生や多くの皆様のご協力のもと、図書館建設を進めていきます。今後ともご協力をいただきますよう何卒よろしく願いいたします。



ヴィエンチャンラオス文部科学省
国際協力局を訪問



タート・インハン小学校にて

タイ・メーコック財団 ピパット・チャイスリン氏 逝去される



当協会の支援先であるタイ・メーコック財団の活動責任者であるピパット・チャイスリン氏が平成 21 年 4 月 15 日に逝去されました。享年 66 歳。ここに謹んでお知らせいたします。

ピパット氏はタイ・チェンマイ県で教員として勤めた後、栃木県にあるアジア学園への留学経験を元に、Pトラベルサービスを設立、タイ北部を中心に山岳少数民族や地方に住む人々の生活に直接触れ、文化を体験するスタディツアーを行いました。このツアーがきっかけとなり、竹原茂氏（当協会理事）、戸辺治朗氏（当時聖学院高校教諭）らとともに、1991 年にメーコックファームを設立。以来、地域の抱える環境問題、麻薬問題、売春問題に取り組み、中でも 2000 年からはメーコック財団として子どもの教育支援活動を続けています。

その活動の傍ら、毎年、日本や海外からのスタディツアーを受け入れ、現地の抱える問題を伝えるとともに、ボランティアに関心を持った多くの学生をはじめ、参加者に多くの勇気と経験を与えてくださいました。

なお、今後の活動は、ピパット氏の夫人であるアノラック氏が引き続き行っております。

心よりご冥福をお祈りするとともに、これからもメーコック財団の活動の継続、子どもたちの成長を祈ってやみません。



ピパット先生とメーコックの子ども



RODA から献花させていただきました



子どもたちは歌で
ピパット先生を送りました

浜松モラロジー連絡会主催 国際協力特別講座に参加しました



国際協力特別講座

平成21年11月28日(土) 13:30～17:30

会場：なゆた・浜北3F大会議室

講師：竹原 茂

(麗澤大学教授・麗澤海外開発協会理事)

主催：浜松モラロジー連絡会

※プログラム

- ・プアン活動紹介・竹原教授講演
- ・チャリティーオークション その他

平成21年11月28日(土)に浜松モラロジー連絡会主催「国際協力特別講座」が開講され、麗澤大学でタイ語や国際協力論を担当する竹原茂教授(当協会理事)が「国際協力とは何?」というテーマをもとに講演されました。竹原教授はご自身のこれまでの活動や大学での教育内容、現在行っているプロジェクトなどについて紹介し、「途上国に自分は何ができるのか」ということを参加者に分かりやすく説明されました。

また、竹原教授と共に麗澤大学の国際協力サークル「プアン」の学生メンバーも参加、華やかなタイの民族衣装を着て、タイとラオスの現状や、スタディツアーの体験などの発表をしました。会場では国際協力大チャリティーオークションも開催され、たくさんの方にタイの少数民族が作る布製品を購入していただきました。これらの収入は主に東南アジアの子どもたちの教育のために使われます。

今回参加した学生メンバーは初めての出張講演に少々緊張気味でしたが、講演後のみかん狩りやバーベキューパーティーなどを通じて、改めて国際協力の輪が広がっていく楽しさを感じたようです。講演会の準備や交流の機会を設けてくださった浜松モラロジー連絡会の皆さん、どうもありがとうございました。



竹原教授の講演



竹原教授のサイン会をしました!



ボランティアサークル「プアン」の学生も参加



浜松でみかん狩りも体験

たくさんのご支援、ありがとうございます

(平成21年4月から平成22年1月末日)

会 費

鷺津邦男、田島正幸、廣池英行、桑島朋子、嶋田順子、三井実、長谷篤治、堀部房男、桑島義智、永治達彦、宮脇常夫、上村卓三、須坂輝子、大橋政夫、荒木郁雄、高松宇佐雄、杉浦廣道、福田薫、望月一雄、前田三作、須見好和、中村修一、大山寿々枝、高松 洸、山田雅雄、發坂卓雄、山本浩、大垣モロロジー事務所、横尾昭男、荻野益男、星野修一、岸本收、山口明、平川恵一、小嶋義佑、平塚靖永、橋本半兵衛、合資 川貞商店、岩崎義夫、藤森忠雄、宮本勝子、伊東俊太郎、小松務、榊小松製菓、長谷和治、榊ダイキョープラザ、土谷和光、大村金三、野田ミート(株)、野田好秋、藤村きみ、久慈芳子、太田徳昭、濱井利一、大河原良雄、福澤清治、福井博康、佐藤薬品工業(株)、笠原茂、中川千恵子、白木貞一郎、井上源一、戸田正宏、山崎純雄、望月省二、島田京子、松本哲洋、木村美紀夫、水田恵一郎、荒川安幸、松下道子、大上磯松、奥村寛、廣池幹堂、横山守男、石渡英雄、久保智子、館林正孝、小西直之、小山松男、今井収、望月雄二、望月靖子、望月敏雄、望月淑子、木下廣太郎、関哲夫、宮島達郎、竹原茂、林正勝、白木和彦、(有)白木園芸、白木ふさ子、山本祥子、柏谷康博、山本幾雄、横山印刷(株)、所一彌、藤村薫、小林雅純、有限会社 弘明堂、丸山駿一、柴田英輔、神田和、水竹優香里、水野睦子、正木夢子、豊坂波留奈、横山奈樹、甲良昭彦

竹原基金

鋤柄勤治、田島正幸、廣池英行、長谷篤治、堀部房男、桑島義智、宮脇常夫、大橋政夫、前田三作、中村修一、山田雅雄、發坂卓雄、山本浩、荻野益男、岸本收、山口明、平川恵一、小嶋義佑、長谷和治、土谷和光、濱井利一、福井博康、笠原茂、三保博子、松本哲洋、鈴木靖久、中新田モロロジー事務所、廣池幹堂、横山守男、石渡英雄、北岡絵美、ウイクラマラタナ文子、小西直之、村松正章、宮本勝子、竹原ゼミ生 OB0G 同窓会、田中駿平、木下廣太郎、関哲夫、竹原茂、白木和彦、甲良昭彦

一般寄付金

田島正幸、長谷篤治、廣池学園瑞浪分園婦人会、松浦鐵三、宮脇常夫、井上照悟、大橋政夫、前田三作、中村修一、高松 洸、山田雅雄、發坂卓雄、村山直子、荻野益男、山口明、井上千多枝、加藤義彦、寛重夫、小松務、長谷和治、増田一江、爽やかゴルフサークル、森俊一郎、モロロジー東北ブロック、女性クラブリーダーの会、福井博康、鹿行モロロジー事務所、瀧川和彦、飯島孝之、出町友里子、杉山博子、20年先の日本を考える会、内田實、井出一男、MGC 事務局、廣池幹堂、奈木泰博、横山守男、増田顕次郎、愛知県名古屋ボギークラブ、鈴木秀子、小西直之、サンマルク鈴鹿店、澤田栄作、中日本生涯学習センター、松本隆夫、ウイクラマラタナ文子、尾西モロロジー事務所 女性クラブ、中野芳典、奥村寛、盛岡モロロジー事務所、古希サンクスコンペ、宮本勝子、一瀬英薫、板橋芳夫、木下廣太郎、関哲夫、山本幾雄、所一彌、飯島孝之、佐藤孝子、鈴木秀子、御前崎モロロジー事務所、森与喜男、三重県モロロジー協議会、京都南丹モロロジー事務所、杉山 直、橋高重久、MGC九州サークル、丸山駿一、片山道則、増田顕次郎、塩田哲男、笠田環嗣、名張モロロジー事務所、奈良モロロジー事務所、鋤柄勤治、中野芳典、中新田モロロジー事務所、坂井モロロジー事務所、木村多加志、京丹後モロロジー事務所青年クラブ、京都中京区モロロジー事務所、甲良昭彦

(敬称略)

皆様からいただいた会費や寄付金などは、ネパール・タイ・ラオス・カンボジアへの教育・医療支援活動や、海外において災害などが発生した場合の緊急支援活動に役立たせていただいています。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

種 類	年 額
会 費	個人 1口1万円(1口以上) 法人 1口1万円(3口以上)
竹原基金	任意の寄付金を募ります
一般寄付金 募 金	任意の寄付金を募ります

郵便振替：口座番号 00120-6-499164
 名義 (財) 麗澤海外開発協会
 ※通信欄にご寄付の種類をご記入ください。
 銀行口座：三菱東京UFJ銀行松戸西口支店 普通 4057567
 名義 (財) 麗澤海外開発協会

(財)麗澤海外開発協会 事務局

〒277-0065

千葉県柏市光ヶ丘2-1-1

TEL：04-7173-3165

FAX：04-7173-8953

E-Mail：kaikyo@ga.reitaku-u.ac.jp

H P：http://www.reitaku.or.jp/



会費、寄付金をお寄せいただいた方のお名前は、会報に掲載させていただきます。

掲載不要の方は振込用紙の通信欄にその旨をご記入いただくか、事務局までお知らせください。

ご連絡のない場合は、掲載にご同意いただいたものとさせていただきますので、ご了承ください。(麗澤海外開発協会事務局:04-7173-3165)